

番号	27	平成28年度公共事業再評価調書				担当課名 砂防課	
事業名	急傾斜地崩壊対策事業			事業主体	静岡県		
箇所名	くつので 沓谷			関係市町村	静岡市		
事業採択年度	平成 24 年度	計画期間		平成24年度 ~ 平成33年度			
用地着手年度	平成 26 年度	工事着手年度		平成 26 年度			
再評価理由※	事業採択(H24)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H26年度	H27年度	H28年度見込	計	
	422		77	80	30	187	
事業概要	<p>(1)事業目的 当該地区の斜面は、荒廃が進行し、豪雨等による斜面崩壊の危険性が高いため、災害時要援護者を抱える大規模医療施設と保全人家25戸の人命保護を目的とし、待ち受け擁壁を設置する。</p> <p>(2)事業内容 延長470.0m もたれ式擁壁延長289.0m 重力式擁壁延長275.5m 落石防止柵工延長578.0m 吹付法枠工面積515.5m²</p>						
【視点1】 事業の 必要性	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 平成26年台風18号の豪雨により、法面から土砂が人家敷地に流出し、地元住民の不安を増幅させており、早期の事業執行が望まれている。</p> <p>(2)事業の投資効果 投資効率(費用対効果) : 3.77 総便益 : 1550.6百万円 総費用 : 411.7百万円 急傾斜地の崩壊の際に被害を受ける区域には、人家が25戸ある。 住民の高齢化が進んでおり、降雨時の避難が困難な家庭もあり、早期の事業執行が望まれている。</p> <p>(3)事業の進捗状況(H28末) 【事業費】 44.3% 187百万円/422百万円 【事業量】 26.9% 126.4m/470m</p>						
	評価	継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない					
【視点2】 今後の 事業の進捗 の見込み	<p>これまでも、用地買収や工事協力などの地元調整が円滑に行われており、今後の事業についての反対者等もない。アンケート結果でも、回答者のすべてが「事業を継続する必要性を感じる」と回答しており、事業に対する地元の要望も強い。 引き続き、地元の協力関係の維持・向上などに努めることから、今後も事業は順調に進捗し、平成33年度完了見込みである。</p>						
	評価	継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない					
【視点3】 新たなコスト 縮減・代替案 立案等 の可能性	<p>軟弱地盤対策について良質置換土工法にして、工事費の軽減を図るとともに、受益者から工事用道路用地を無償で提供を受けるなど、既にコスト縮減策を講じており、引き続きコスト縮減に努めていく。</p>						
対応方針 (案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(<u>継続</u> ・ 見直し後継続 ・ 中止)する。</p> <p>(2)理由 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められることから、事業を継続して整備の促進を図る。</p>						

費用対効果算出説明書

「沓谷」急傾斜

(「急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析マニュアル(案)」建設省砂防部)

総括表

総便益B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額]	1,550.6百万円
総費用C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	411.7百万円
B/C		3.77

総便益

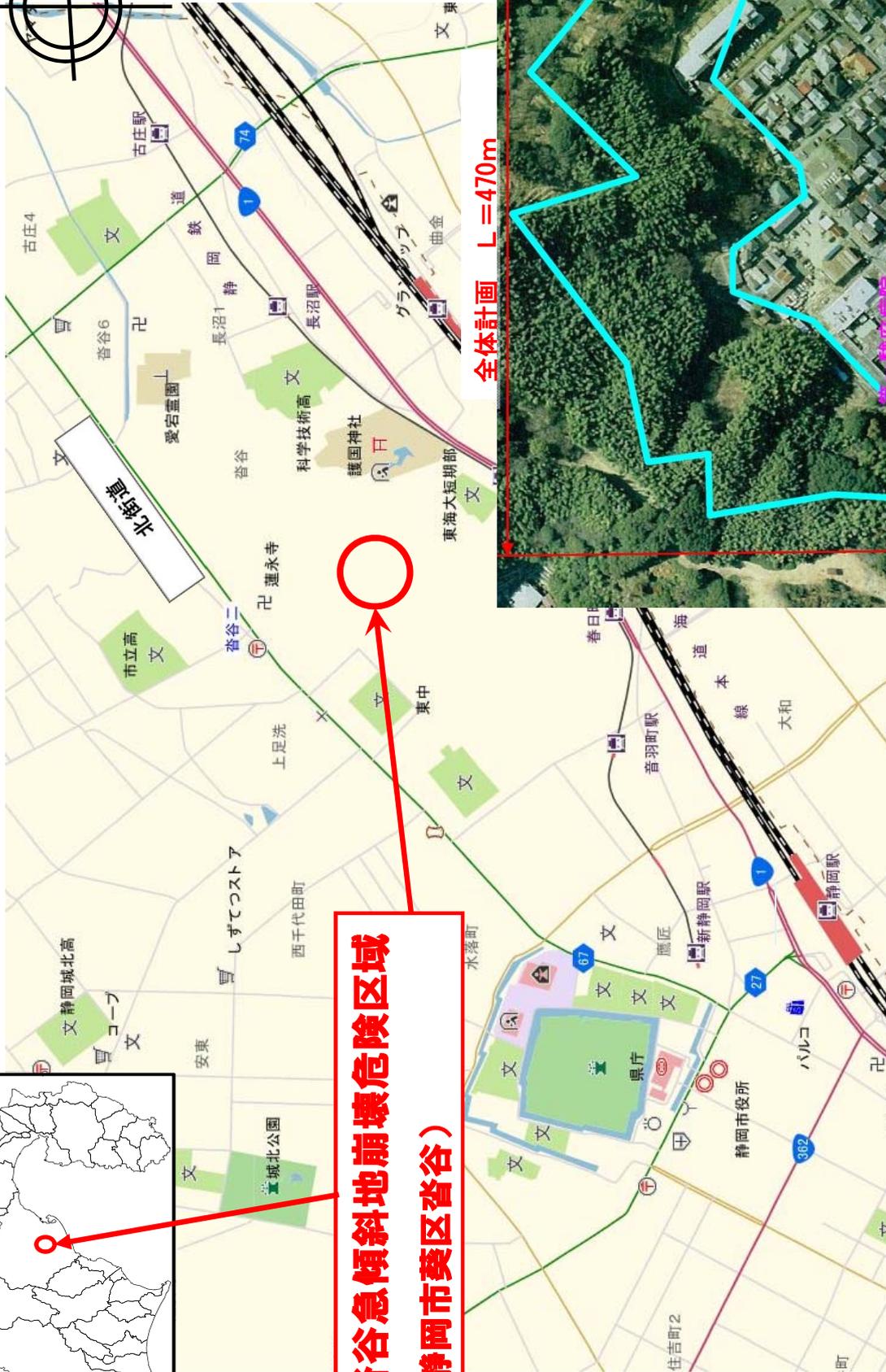
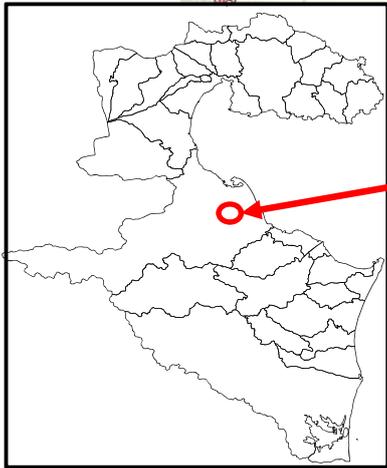
[急傾斜事業を実施しない場合の被害額]－[急傾斜事業を実施した場合の被害額]
 年平均被害軽減期待額を評価対象期間60年(整備期間10年＋耐用期間50年)について累計する。
 ただし、年平均被害軽減期待額は算出基準年(平成28年)に基づく社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。
 便益計 = $\sum \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n$
 = 1,550.6百万円

- ※ 年平均被害軽減期待額: がけ崩れ発生の生起確率(1/10年超過確率降雨及び1/50年超過確率降雨)それぞれに対応した被害軽減額の平均値の合計。
- ※ 人的被害額/1人あたりは、1/50年超過確率降雨のみで発生し、市町の人口比率を反映した各年齢別人的被害額の平均額である。その平均額を被害想定区域内の死者数を想定し乗じて人的被害額を算定する。
- ※ 整備期間中の被害軽減額は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]
 各年次の建設費と維持管理費(過去5ヶ年の平均値)を評価対象期間60年(整備期間10年＋耐用期間50年)について累計する。
 ただし、各年次の建設費及び維持管理費は、算出基準年(平成28年)に基づくデフレータ及び社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。
 費用計 = $\sum \text{年間建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n$
 = 409.6百万円 + 2.1百万円
 = 411.7百万円

沓谷地区の位置



**沓谷急傾斜地崩壊危険区域
(静岡市葵区沓谷)**

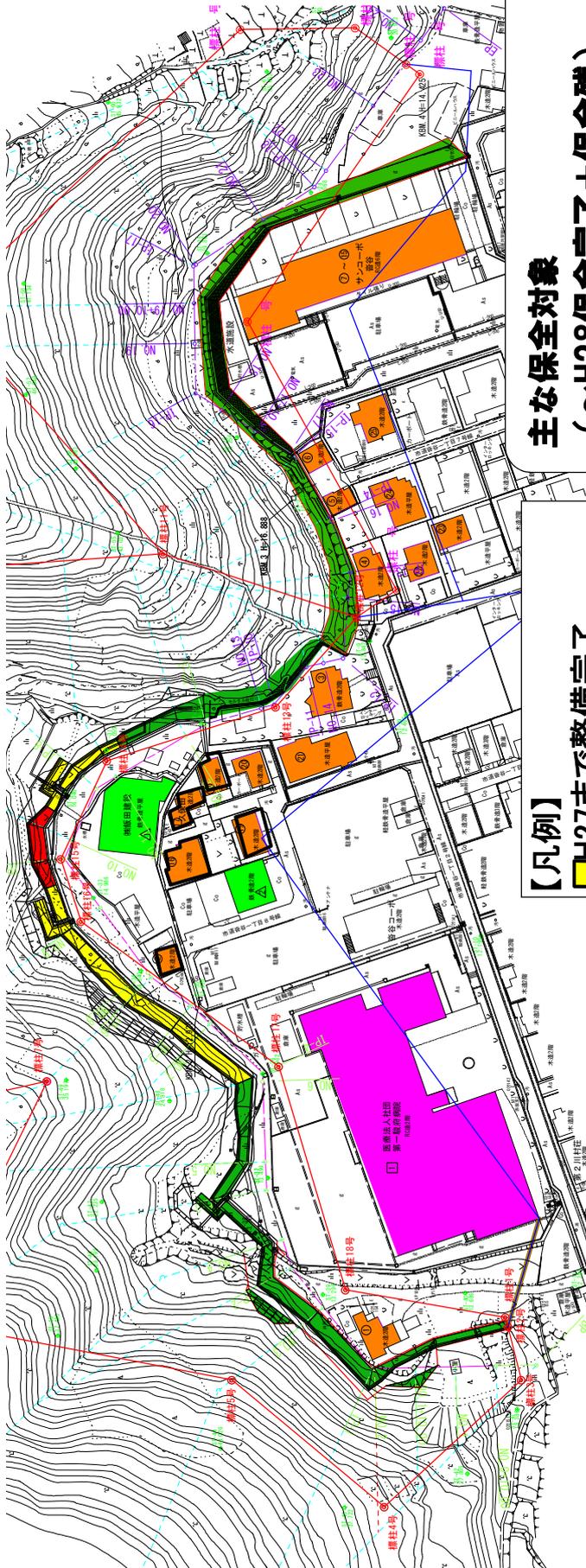
全体計画 L=470m



全景写真

沓谷急傾斜の專業概要

全体計画 擁壁工 L=470m



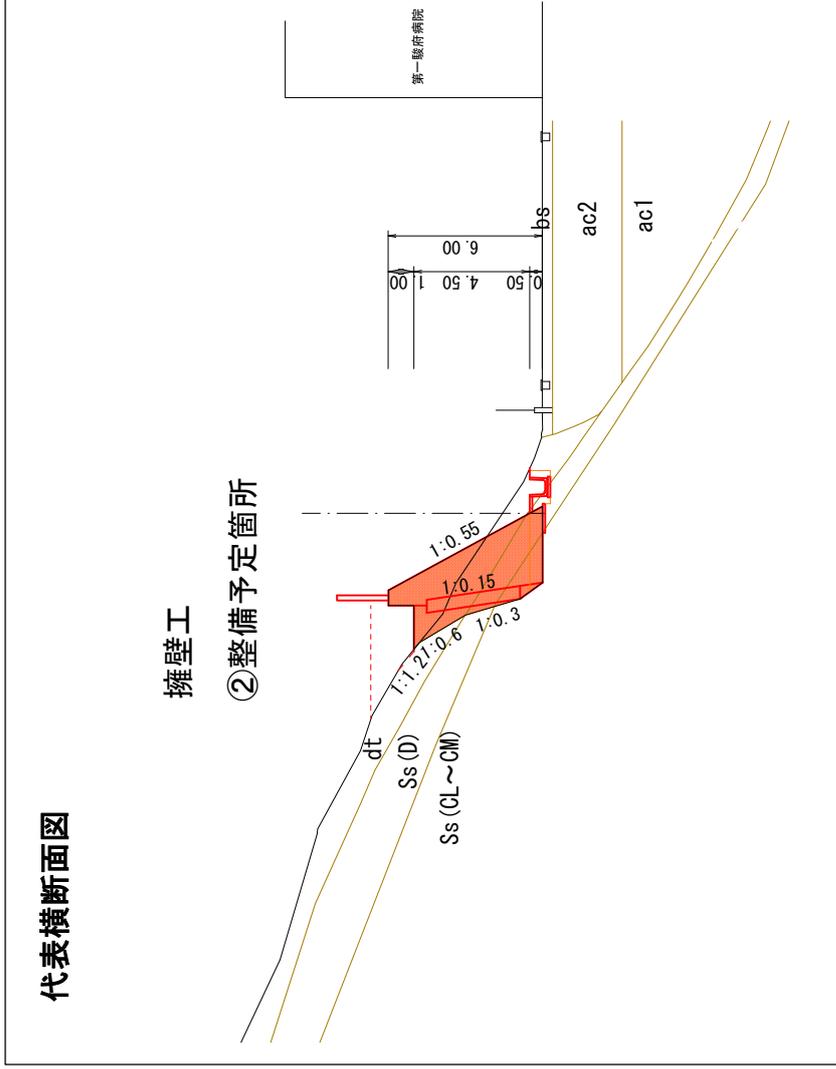
【凡例】

- H27まで整備完了
- H28整備完了予定
- H29以降施工予定
- 急傾斜地崩壊危険区域
- 被害想定範囲

主な保全対象
(~H28保全完了+保全残)

- 人家25戸
- (■ 5戸 + ■ 20戸)
- 第一府病院

施設の整備状況と今後の対策工事



①擁壁工(整備済箇所)



②擁壁工(整備予定箇所)

総便益	1,550.6百万円
総費用	411.7百万円
B/C	3.77

事業の進捗状況(H28末)

- 事業費 44.3%
- 擁壁工 26.9%

施設整備を継続し、
人家25戸(65戸*)
の保全を図る

*: 要配慮者施設の定員3名当りを1戸として換算